

◎インタビューー 元女子ソフトボール日本代表 監督 宇津木 妙子さん



神前で心を整えれば
自然と背筋がぴんとなる。

◆この会報を発行するにあたり、編集委員の中から「どなたか神社とご縁のある方にお話しをお伺いする事は出来ないか」との案が出され、宇津木さんのお名前がまりました。翌日ひよっこり宇津木さんが参拝なされたのでみんな驚きました。

不思議なご縁。これも神様のお導きでしょうか？私の名前「妙子」は住職に命名されたこともあり、幼い頃から神仏に手を合わせる習慣がありました。大人になって関わる人が多くなればなるほど自然と「みんなが平穏な一日を送れますように」という感じにお祈りする事が多くなつたと思います。とは言っても、この年になつてもまだ自分の中に雑念があつて…。そんな時、神社を参りすると心身共に落ち着くんですよ。



◆高崎神社の神様とのご縁をお聞かせ願います。

私が監督をしていたルネサスの工場敷地内に熊野神社という小さなお社がありまして、いつもグラウンドに行く際、手を合わせておりました。賽銭箱のお金、ほとんど私が入れたものですよ(笑)。毎年

七月と年末年始に、神主さんが来てお祓いをしてくれました。お陰で大した怪我もなく過ごす事が出来たと思つていますよ。神様の御加護でしょうね。また春にはみんな高崎神社に参拝して必勝祈願をするのが慣わしでした。神前で心を整えれば自然と背筋がぴんとなる。人間ってそういう場所が必要だし、それを伝えていかなければならないと思うんです。「ピックカメラ女子ソフトボール高崎」として再出発してからも麗華監督をはじめ選手みんなが神社に詣で揃つてお祓いを受けています。



ピックカメラ女子ソフトボール高崎 必勝祈願

◆全日本監督時代、厳しいご指導をなされたことで知られていますが、メンタル面ではどのような指導をされたのでしょうか？

選手にはよく「心の在り方」について指導しました。「天地の理」ではないのですが、打った瞬間に追い風が吹いてホームランになる事もあれば、時には戻されてフライにもなる。外野フライが上がった瞬間に雲の切れ間から日が差し込み、眩しくてボールを落とす事もある。普段の生活において常に誰かに見られていることを意識し「自分はこれでいいの

かな？」と振り返る気持ちを持つ。道徳観のあるしっかりとした日常を送る事で「自分は護られている」という自信を持つてると思ふのです。



高崎神社 正式参拝

◆先日、高崎で開催されたジャパンカップでは日本代表チームがアメリカを大差で破って優勝しました。東京オリンピックに向けて好発進となりましたが、今後日本チームの課題は。

如何に良い組織、人間関係を作れるかが鍵だと思います。競争原理でただ勝てばよいというのではなく、常に相手のことを考えてあげる「心」が大切です。お互いを認め合う事により、各々の個性を見出し引き上げてあげる事が出来ると思います。最高の舞台で、選手一人一人が各々の役割を遺憾無く発揮してほしいと思います。



九月五日「ホワイトイン高崎」にて